

民衆の声
ボイス

No.108

公明党 横浜市会ニュース

VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市会議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL.671-3023 FAX.681-2060

令和6年 第2回定例会報告

10月から申請受付 補正予算で子育て・教育施策を補強!



横浜市は
妊婦健康診査に**+5万円**を
支給します。

いじめ・不登校対策のための学校体制強化や子育て支援など、公明党横浜市会議員団の要望を反映した重要な議案が議決されました。

特に、妊婦健康診査の支援拡大については、指定都市平均額を大きく下回る横浜の公費負担を早急に引き上げるよう、市長へ要望書を提出し、「令和6年度中の出来るだけ早期の実施に向けてしっかり取り組む」との回答を得ていました。

●妊婦健康診査の公費負担を拡充し、妊婦の経済負担を軽減

- ・現状の助成額82,700円(補助券)に加えて**+50,000円**を現金支給
- ・横浜市内に住居登録があり、令和6年4月1日以降に妊婦健診を1回以上受診した方を対象
- ・横浜市子育て応援サイト・アプリからも申請可能に

QRコード (市HP)

山中市長へ要望書を提出へ(4月25日)

いじめ再発防止へ学校体制を強化!

●スクールカウンセラーの配置拡充

- ①9月から順次、現状の約160名に**+53名**を追加配置
- ②市立の中高・高等特別支援学校への配置日数を倍増

スクールカウンセラーの心理面の専門性を活かして、児童・生徒が抱える様々な課題(不登校やいじめ、学習関連)について、学校現場での解決のためのアドバイス等を行います。



●教室外登校(校内ハートフル事業)を全中学校で実施へ

全中学校の146校(+66校)で実施の方向

不登校傾向にある子どもや、在籍する学級に登校することが難しい子どものために、学校内で「安心して過ごせる居場所」と「個に応じた学び」を提供します。令和2年度にスタートし、今年度は80校まで拡充し、来年度中に全校配置を目指すとしていた目標を前倒して今年度に全中学校で実施します。

■物価高騰に4万円の減税がスタート

(納税世帯) 所得税3万円・住民税1万円
=合計4万円(1人当たり)を減税 6月開始

定額減税について

明るい未来への一歩 世界平和に向けて!

初当選から、まる1年を迎えた4月9日の当日、広島平和記念資料館を訪れていました。公明党横浜市会の団視察で、在日コリアンの集落(京都府宇治市のウトロ地区)へ人権問題(P2ご参照)の視察をした後、広島へ赴き世界平和への誓いを新たにしました。

リニューアルされた原爆資料館では、被爆の実相をより分かりやすく伝えるために展示が整備され、ビジュアル等の工夫によりリアルに目の前でこの惨劇が起きているかのような展開がされていました。特に昨年のG7の後には、世界中から様々な人々が来館しているとのことで、ロビーは9割強の外国人の団体がひしめき合っていました。外に出ると、桜がひらひらと舞い散り、平和を象徴する穏やかな風景が広がりました。慰霊碑には「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませぬから」との誓いが刻まれ、この世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」を、改めて決意する日となりました。



横浜市議員
市来 えみこ
【都筑区選出】

5月には、兵庫県から一般社団法人「芸術の森」のジェシィさん達を迎え、ウクライナ避難者の皆様とも交流を図りました。戦禍から逃れて日本へ暮らしているウクライナの方々にとって、自国の「音楽・芸術・文化」に触れることはとても大切で、生きる力を支えることです。横浜市のウクライナ交流拠点「デュルージュ」の皆様とも意見交換をし、3日のパレードでもご一緒させていただきました。



都筑区 まちかどホットライン

■中川西のスクールゾーン安全対策

スピードを落とさない車の通行が多く、これまで、スクール対策協議会でも取り上げられている箇所。危ないので、スピード規制標示(30km/h)を増やしてほしいと要請し、**30km/hの規制標識を追加設置していただきました。**



QRコード X(Twitter) Instagram

(E-mail) ichiki.emiko.yokohama@gmail.com
(ホームページ) http://ichikiemiko.jp

政務活動最前線

中小企業や エッセンシャル ワーカーの 賃上げを!

5月23日に、山中市長に「横浜市から国への要望事項について」の要望書を提出しました。結果、社会の土台を支える中小零細企業の賃上げ支援の拡充をはじめ、保育士、介護士の賃上げを求める公明提案が盛り込まれました。



政策懇談会を実施

6月12日から19日の1週間にわたり公明党横浜市会議員団の政策懇談会を開催し、医療・介護・福祉分野をはじめ、子育て・教育、建築・建設などの多分野にわたる38団体の皆さまとの意見交換を行いました。

社会の現場から伺った課題、最前線の知見を活かして、横浜市の政策の更なる充実と次年度の予算策定に結びつけられるように取り組んでいきます。



介助犬を囲んで談笑(日本介助犬協会)

公明党横浜市会政策懇談会



要望書の手交(横浜建設業協会)



懇談会の風景(横浜市病院協会)

公明党横浜市会議員団、新しい構成により議会がスタート

 <p>仁田 昌寿 (南区) 健康福祉・医療委員会 減災対策推進特別委員会 神奈川県後期高齢者医療広域連合 議会議員</p>	 <p>竹野内 猛 (金沢区) こども青少年・教育委員会 大都市行財政制度特別委員会副委員長</p>	 <p>安西 英俊 (港南区) 政務調査会副会長 国際・経済・港湾委員会 減災対策推進特別委員会(委員長)</p>	 <p>中島 光徳 (戸塚区) 政務調査会会長 国際・経済・港湾委員会(委員長) 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員(理事)</p>	 <p>行田 朝仁 (青葉区) 副団長 市民・きぼうスポーツ文化・消防 委員会 減災対策推進特別委員会 神奈川県広域水道企業団議会議員</p>	 <p>望月 康弘 (港北区) 副団長 こども青少年・教育委員会(副委員長) 郊外部再生・活性化特別委員会</p>	 <p>斉藤 伸 (保土ヶ谷区) 団長 下水道河川・水道・交通委員会 健康づくり・スポーツ推進特別委員会 (副委員長)</p>	 <p>福島 直子 (中区) 第61代副議長 脱炭素・GREENEXPO推進・ みどり環境・資源循環委員会 大都市行財政制度特別委員会</p>
 <p>武田 勝久 (磯子区) 脱炭素・GREENEXPO 推進・みどり環境・資源循環 委員会 郊外部再生・活性化特別委員会</p>	 <p>市来 栄美子 (都筑区) 下水道河川・水道・交通委員会 健康づくり・スポーツ推進 特別委員会 議会広報会議</p>	 <p>久保 和弘 (瀬谷区) 副委員長 建築・都市整備・道路委員会 市会運営委員会</p>	 <p>木内 秀一 (旭区) 政策経営・総務・財政委員会 基地対策推進特別委員会 神奈川県後期高齢者医療 広域連合議会議員</p>	 <p>尾崎 太 (鶴見区) 建築・都市整備・道路委員会 大都市行財政制度特別委員会 市会運営委員会(副委員長)</p>	 <p>竹内 康洋 (神奈川区) 政策経営・総務・財政委員会 (副委員長) 健康づくり・スポーツ推進 特別委員会</p>	 <p>高橋 正治 (緑区) 健康福祉・医療委員会(委員長) 新たな都市活力推進特別委員会</p>	

地域での移動手段の確保を

京急バスが行う、金沢区能見台エリアでの自動運転バスの運行や本社からの遠隔監視設備による運転を体験しました。多様化するニーズに対する、地域交通の最新の実証実験です。「住宅地から最寄り駅まで、駅から勤務先・学校まで」のような従来の通勤・通学輸送に加えて「地域内での小さな移動手段」の実現は喫緊の課題です。



使用済み食用油を航空燃料へ

日本航空(株)(JAL)と横浜市の連携協定による事業として、家庭からの廃食油回収ボックスを市内で最初に設置したイオンフードスタイル鴨居店を訪問しました。

回収後は、SAF(※持続可能な航空燃料)を製造します。資源の有効利用、環境負荷低減における回収状況や今後の展開について確認しました。



メタバースで、若者の 生きづらさ解消へ

横浜市立大学・宮崎智之教授をお招きし、近年、増加する不登校をはじめ、離職、引きこもりなどでの若者の生きづらさが多様化する状況、またメタバースを活用した解消への取り組みを学びました。「心を大切に文化を醸成したい」という根本的な発想に深い感銘を受けました。



差別のない未来を目指して

京都宇治市にある在日コリアンの集落「ウトロ地区」にある平和記念館を訪問しました。戦後も、壮絶な人種差別により、上下水道などの生活インフラも整備されず日本社会から置き去りにされてきた町です。本館へ足を運んだのは公明党が初めてとのことで、人権と平和から差別のない未来を構築してまいります。



障害児者の歯科医療の課題

横浜市歯科保険医療センターでは、障害特性により一般歯科での治療が難しい患者を一手に引き受けています。年間約9000人の患者を、市内(中区)に1カ所で担っており、人口規模に対応した拡充が求められます。圧倒的に不足する人材・予算などの深刻な課題を早期に改善するよう努めていきます。



病気と闘う子供や家族を支援

横浜こどもホスピス『うみとそらのおうち』を訪問し、田川尚登代表理事よりご案内頂きました。同施設は、生命に関わる病気と闘う子供や家族を支える施設です。地域コミュニティ型の通所施設として社会において大切な場であり、施設の全国展開が期待されます。

